

## 全国の自治体における計画の構成と類型ごとのメリット・デメリットについて

### 1 全国の自治体における計画の構成

現在に至るまで多くの自治体が3層構成の総合計画を策定している。

東京都特別区においても、概ね同様の傾向となっており、17団体（73.9%）が3層構造、5団体（21.7%）が基本構想と基本計画の2層構造、1団体（4.3%）が基本構想、実施計画の三層構造となっている。

全国の自治体（都道府県・特別区・市を対象）における計画の構成（単一回答）

	3層 (基本 構想、計 画、実 施計 画)	2層 (基本 構想、 基本計 画)	2層 (基本 構想、 実施計 画)	2層 (基本 計画、 実施計 画)	1層 (基本 構想の み)	1層 (基本 計画の み)	1層 (実施 計画の み)	独自の 計画の み
合計 (n=465)	71.8%	14.8%	5.6%	1.3%	0.6%	0.9%	0.0%	1.5%
特別区 (n=13)	76.9%	23.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
中核市 (n=37)	70.3%	10.8%	16.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
一般市 (n=368)	75.5%	14.4%	4.3%	1.1%	0.5%	0.0%	0.0%	1.1%

資料) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「平成30年度自治体経営実態調査」

### 東京都特別区の総合計画構成

区分	該当する区	団体数(比率)
3層(基本構想、基本計画、実施計画)	港区、新宿区、台東区、品川区、目黒区、大田区、世田谷区、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区	17 (73.9%)
2層(基本構想、基本計画)	千代田区、中央区、墨田区、江東区、中野区	5 (21.7%)
2層(基本構想、実施計画)	文京区	1 (4.3%)

資料) 各区ホームページ公表資料より作成

## 2 類型ごとのメリット・デメリット

大まかな傾向として、3層と比較して2層、1層は策定負担が軽減される点、区民から見て分かりやすい点がメリットとなるが、階層を省略した分、策定する構想、計画の情報量が多くなり、改定サイクルが短期化する点がデメリットとなる傾向にある。

総合計画の計画構成のタイプとメリット・デメリットの比較

タイプ		メリット	デメリット
3層	基本構想+基本計画+実施計画	○ 長期ビジョン、具体的施策、事業のそれぞれに最も適した計画期間を設定できる	● 階層が多く区民から見て理解しづらい。 ● 基本構想が長期となりがちで形骸化、陳腐化しやすい
2層	基本構想+基本計画	○ 階層が簡素で区民からみてわかりやすい ○ 事業の掲載など基本計画の具体性が高まり、市民や職員の認知度、活用度が高まる	● 基本計画の情報量が多くなりがちである ● 実施計画を策定しないため、事業の中期的計画について基本計画に記載するか、別途何らかの形で公表する必要がある。
	基本構想+実施計画	○ 階層が簡素で区民からみてわかりやすい ○ 3層性では区民に身近とは言い難い実施計画への区民の認知度、理解度が高まる	● 基本構想の情報量が多くなりがちである ● 基本計画を策定しないため、実施計画に施策の説明力を持たせる必要がある ● 基本構想の改定サイクルが短期となり勝ちである
1層	基本計画またはこれに類する大綱や指針	○ 簡潔で重要なポイントに絞り込まれており、区民からみてわかりやすい ○ 単独の計画であり機動的な見直しが可能	● 情報量が限られており、説明責任をはたすために他の手段も含めた情報提供が必要。 ● 区政の具体的な指針は個別計画にゆだねる形とならざるを得ない ● 計画の改訂サイクルがより短期とならざるを得ない

以 上